

## 編集後記

大学における数学・物理・化学など「積み上げ型科目」の専門課程の学修の意義は、単なる知識の集積ではなく、専門科目を体系的に理解し、得られた知識を「活用可能な形」に修得することにあります。最近では、小型の電子辞書であっても、辞書や専門書など数十冊をまるごと記憶することができますが、記憶してある言葉の意味をキーワードで検索するだけでは新しいものを創造することはできません。一方、人間は、大量のデータをまるごと正確に記憶することは不得意ですが、体系的な専門知識を「活用可能な形」に理解・記憶することで、不思議なことに新しいことを創造することまでできます。これこそ、人間だけがもつ優れた特性です。脳の中で、どういう形で、これらの記憶や理解、さらに創造が実現されているかはまだ解明されていませんが、繰り返し記憶する訓練を行い、さらに体系的に理解することは、脳の神経線維のネットワークが新たに形成される化学的現象であることは間違いない訳です。大学の4年間または6年間の専門課程で学ぶことの意義は、結局、専門科目の反復学習と体系的理解によって、「自分なりの脳を創り上げること」と言うことができます。したがって、一夜漬けだけで試験に臨んでばかりいては、大学の専門課程が修了しても、そうした脳が形成できないこととなります。一冊の本をさっと読んで得られる知識の獲得は、卒業もできるでしょうが、専門課程の意義は、そうした知識を理解して系統的に脳に取り込む、いわば「ツール」を頭の中に作ることなのでしょう。

したがって、大学に入学したら、是非、「良い習慣を付ける」ことに心掛けるべきです。英語の発音練習を毎日行う、授業の数学をその都度完璧に理解する、などなど。これは結構難しいことで、そのために「強い意思・気魄」が必要ですし、さらに教育の現場では、学生に対する優れた「動機付け」が必要です。そのためには、教員が「〇〇の科目が重要だ」と学生に伝えるよりも、素晴らしい研究成果やそれに向かう姿勢を見せることによって、その積み上げ科目の延長上にある「科学」を若い人の「あこがれ」にすることが重要だと思います。それが学術の大きな目的の一つだと思います。

金井 浩

### 謝辞

2012年10月1日～2013年9月30日の間に、査読委員外で論文査読を行って頂きました先生方に感謝の意を表し、以下に御氏名を記載致します。

大西 俊成、奥野 敏隆、金田 智、木佐貫 彰、櫻井 健一、白川 崇子、  
西上 和宏、古川まどか

(50音順)

超音波医学  
Japanese Journal of  
Medical Ultrasonics

第40巻 第6号 (通巻第278号)

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,100円 (税込み) (本誌購読料は会費に含まれます。)

平成25年11月15日発行

編集者 一般社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 一般社団法人日本超音波医学会 理事長 竹中 克

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1

お茶の水センタービル6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社